

2019年03月19日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米中首脳会談が、何度も何度も延期されている】

米中の首脳会談は、当初は、2月末もしくは、3月末に予定されていた。

しかし、延期が決定されて、4月になる、と発表された。

そして、今月(3月)になると、さらに延期されて、6月になる、ということだ。

米中首脳会談の延期は、常識で考えるならば、激しい交渉が続いており、合意が難しい状況に陥っている、という推測になる。

+++++

米中の貿易問題に関する交渉の具体的な内容は、今のところ、オフィシャルには報道されていない。

時折、トランプ大統領のツイッターで、「交渉はうまくいっている、進展している」といった情報が流れたり、米国の実務交渉担当から、「かなりの進展を遂げた」といったコメントが出ているだけだ。

米中それぞれの外交に関することなので、双方とも、手の内をさらけ出すような行動は取れない。

だから、交渉の具体的な内容が、漏れてこないのは、むしろ当然だろう。

だから、推測するしかない。

+++++

振り返ると、昨年(2018年)の11月末に開催されたG20のタイミングで、12月1日に米中首脳会談が行われた。

この米中首脳会談の結果としては、「米国が90日間の猶予期間を設ける」という合意だった。

この会談では、中国が貿易不均衡を是正する方向で、米国に譲歩する姿勢を見せたことで、米国が、2019年1月1日から発動を予定していた「2000億ドル相当の中国製品に対する関税の25%引き上げ」が、90日間先延ばしされた。

合意の内容としては、2019年1月からの追加関税の拡大を、90日間の猶予期間を設ける。ただし、中国は、米国の大豆などの農産物の輸入を増加させる。

90日以内に、中国の「強制的な技術移転、知的財産権侵害、サイバー攻撃」の改善に関して、米中間で合意がなされなければ、追加関税の拡大を実施する可能性がある。

+++++

この猶予期間が、3月末から、順次、延期されて、今のところ、6月に延期となった米中首脳会談まで続く、ということだ。

+++++

米中関係に関しては、時として、マーケット（金融市場）に、楽観的な思惑が広がる傾向が見られる。

トランプ大統領が、ツイッターで、「交渉は進んでいる」と言えば、それを否定する証拠は無いのだから、トランプ大統領を信じるしかない、ということなのだろうか？

そうあって欲しい（＝米中関係が良くなって欲しい、貿易摩擦問題が早期に決着して欲しい）、という願望が、非常に根強いことも、マーケット（金融市場）が楽観的な理由だろう。

しかしながら、何度も何度も米中首脳会談が延期されたことを踏まえると、安易な期待はできない（つまり、米中は簡単には合意できない）、と、今のところ、推測している。

+++++

米中関係には、最大限に注目するべき、と考えているが、なかなか信用に足る情報が得られない。

ジレンマを感じている。

トランプ政権側から発表される、「交渉はうまくいっている、進展している」といった情報も、果たして、本当なのか、確証が無い。

トランプ大統領が、自分の再選のために、都合の良い情報を流している可能性を、否定できない。

それでも、今のところは、そのくらいしか得られる情報が無い。

+++++

(2019年03月19日東京時間15:10記述)